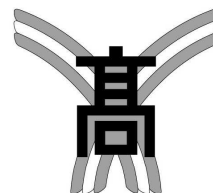


君の授業に乾杯。



【しっかりと「振り返る」ために必要な視点】

前回に引き続き、教員対象アンケートの結果です。今回は「振り返り」の項目についてです。

問：授業終了時に、その時間の振り返りを行っていますか。

1. ほぼ毎時間、何らかの形で振り返りの時間を持つようにしている。	35. 1%
2. 毎時間とはいえないが、振り返りの時間を確保することも多い。	38. 6%
3. 単元ごとなど、ある程度の中身を終えた時点で振り返りをすることはある。	21. 1%
4. 特に意識して振り返りの時間をもつことはしていない。	5. 3%

問：振り返りを行っている場合、どのような方法で行っていますか。(複数回答可)

1. 振り返りシートなどを使って行っている。	39. 1%
2. 小テストなどを実施することで振り返りとしている。	30. 4%
3. そのほかの方法。	24. 1%
4. 特に振り返りは行っていない。	5. 8%



そのほかの方法の例：ノート・授業プリントに記入、板書の目標を確認させる、口頭でまとめる、等

めあての提示と同じく、多くの先生が振り返りを実施しておられることがうかがえる結果となりました。

さて、有効な振り返りを考えるとき、意識したいのは目的語、つまり「何を」振り返らせるかという視点です。

ここでは二つのポイントがあります。一つは、めあて(=〇〇ができるようになる)が達成できたかどうかという振り返りです。めあての達成度合いを体感することで、より授業を自分事として、つまりは主体的なものとして考えるようになります。

もう一つは、その授業の「流れ」の振り返りです。めあて(=〇〇ができるようになる)に至るまでの思考の流れが、自分の頭の中で整理できているかどうかの確認です。これを意識させるには、授業開始時にめあてを確認し、同時に「この時間はまず〇〇をして、次に△△をします」といった見通しを示すことが有効だと言われています。

この二つのポイントを意識すれば、振り返りの形態は問題ではありません。授業のスタイルによっては毎時間とはならないかもしれませんが、「めあての板書と簡単な見通し、最後には振り返り」を授業の型として意識していただければと思います。

【必要な活動だと思えばペアワークも】

委員会で、期末試験後あたりから必要があれば互いに十分な距離を保った上でのペアワークを実施してもよいということになりました。安全に配慮しつつ、授業法の幅を広げてください。